

アライグマの生態と対策

カナダ南部から中央アメリカに分布するアライグマ科の哺乳動物。日本へペットとして入ってきたものが野生化し、分布域を拡大してきている。尾にあるシマ模様が他の動物と見分ける際の大きなポイント。

生態

食性 小型哺乳類、鳥類、両生類、魚類、昆虫、農作物など、なんでも食べる雑食性で、しかも大食漢です。

行動 夜行性で、日中は、高い樹上や家屋の屋根裏などのねぐらで休みます。5本指の爪を立て、木や柱、壁をのぼるのが非常に得意です。小川や用水、側溝などを歩いて移動します。

繁殖 成長が早く、1歳になるとメスは繁殖できます。3月下旬から5月上旬にかけて、1～6頭の子供を産みます。野生の個体の寿命は7～8年といわれています。



スイカは穴をあけ、中に手をつこんで食べる



特徴

- 体長は40～60cm、体重は3～8kgで中型犬くらいの大きさです。
- 最大の特徴は、20～40cmのシマ模様のしっぽです。

被害防止のためのワンポイント・アドバイス

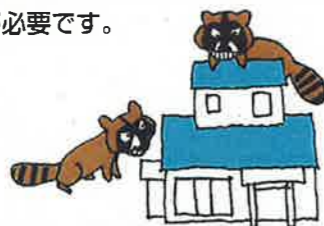
1 エサを与えない

見た目は可愛くとも、絶対に餌は与えてはいけません。生ゴミを畑に不用意に捨てたり、廃棄する作物を畑に野積みして放置したり、果物をなりっぱなしにすることのないようにしましょう。



2 ねぐらをつくらせない

アライグマの侵入口になりそうな壁や床下、屋根の近くの隙間はふさぐようにしましょう。特に、神社などの古い木造建築は、ねぐらや繁殖場所に使われやすいので注意が必要です。



3 積極的に捕獲する

繁殖力が強いアライグマは、個体数を減らすべく、積極的に捕獲する必要があります。捕獲には、箱わなが効果的です。



ヌートリアの生態と対策

原産は南アメリカで、戦時中は軍服用などの毛皮獣として、各地で盛んに養殖されたヌートリア。当時養殖されていたものが野外に放逐され、主に西日本に定着したといわれています。ネズミの仲間、眼や耳は小さく大きなドブネズミのような体つきです。

生態

食性 主に水生植物や二枚貝を採食します。水路沿いに移動するため、イネの食害が最も多く、スイカ、ニンジン、サツマイモ、キャベツなどの野菜も食べます。

行動 泳ぎが得意で、水面を泳いでいる姿をよく見かけます。陸上では主に水際を移動し、水辺から離れた行動範囲はあまり広くないといわれます。本来は夜行性ですが、昼間でも活動がよく観察されます。冬眠はせず、春になると動きが活発になり、主に家族単位で生活します。

繁殖 池沼や河川の中・下流域の流れの緩やかな場所周辺に巣穴を作って繁殖。特定の繁殖期はなく、年に2～3回出産、平均5頭を産みます。



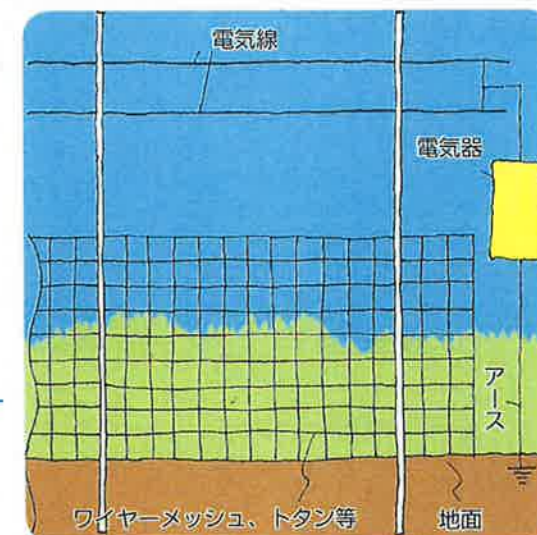
被害防止のためのワンポイント・アドバイス

1 特に水辺近くにエサを放置しない

田畑周辺にエサとなるものがあると寄ってきます。農作物は残さずに早めに収穫しましょう。特に活動範囲になりやすい水辺周辺にエサとなるものを放置しないことが大切です。

2 電気柵の設置が有効

柵を設置する場合は電気ショックを与える電気柵が有効です。田んぼでは、河川へつながる水路から入られないように柵を設置します。ただし、電線が雑草に触ると漏電するため、メンテナンスを欠かさずに行いましょう。また、トタン板や畦波板、ネット設置の場合は、1m程度の高さで耕作地を囲います。柵の下に穴を掘って侵入することもあるため、柵は地面に30cmほど埋め込むとよいでしょう。電気柵との組み合わせで更に効果が上がります。



ワイヤーメッシュ、トタン等 ネット柵等と電気柵を組み合わせると効果アップ

3 営巣場所や隠れ場所をつくらない

耕作放棄されヨシ原となったような田んぼは営巣場所となりやすいため、田んぼや水路周辺の草を刈払って見通しを良くし、隠れ場所や侵入ルートを少なくしましょう。